

卷之二

梅溪先生後集卷第一

賦

教授建何橫

會稽風俗賦并叙

門人周世則

昔司馬相如作上林賦設子虛烏有先生亡是公三人相會唯子虛虛言也烏有先生者烏有是事也亡是公者亡是人也故其詞多夸而其事不實如盧橘黃柑之類蓋上林所無者猶莊生之寓言也余賦會稽雖文采不足以擬相如之萬一然事皆實錄故設為子真無妄先生有君會問之辭子真者誠言也無妄者不虛也有君者有是事也又曰目中之說焉

有客過越自稱子真介于無妄先生贊見於有君謁入

迺滕而前曰明 君之名雅矣今幸際顏色聆詒言僕
輒有請君其聽焉石世家于越以風流自命業博細素
才播歌詠越之山川人物古今風俗載在君腹願聞其
略可摩有君迺歛衽肅容謝曰唯唯客姑坐焉吾以語
爾越於九域分曰揚州揚州禹貢淮海惟揚州周禮東南曰
揚州之域仰瞻天文度當斗牛漢書地理志吳地斗十分
三度斗至女七度為星紀於辰在五天垂象台曰揚州而會
稽入度斗一度白樂天詩云斗牛在天垂象台曰揚州而會
在辰為丑自夏而辰少車之度子也封為禹之苗裔夏
祀禹經封少子無郡於秦漢秦始皇滅荆置會稽郡
餘於越侯郡於秦漢秦始皇滅荆置會稽郡
土稽郡為霸於春秋春秋吳公十三年於越入吳中
州於隋而使於唐隋大業中吳道為越州唐乾元中
公

素而王有鏐隋揚素封越國公唐末錢因種山而中宅

面經種山一名重山即今龍山也吳越春秋越王

文種於國之西海一年伍子胥自海上穿山越時

去與山之低處是也廓蟲成而外州還范蠡築小

今西山低處是也廓蟲成而外州還范蠡築小

門東南伏漏石竇以象也戶陵門四達以象八風外郭

會稽治山陰以來此城即為部城龍樓翼而屹峙石竇

伏而巽流法大門弓墜戶惟崑崙崙是倅吳越春秋范

城也其應天矣實東南之大府號實天下之無仇

天下本其山則鬱上蒼上巖上崑上磅礪蛇蜒嶂嶂

或昂而低虎卧龜磚龍盤馮徊舒為屏障峙為樓臺
映江湖明滅乎八山中藏府城之內有八山種山龜

映江湖明滅乎八山中藏府城之內有八山種山龜

山白馬山蛾眉山俱已所存者
鮑名存圖之經城鮑郎山會稽縣北四里在典今大能仁所
前郡國志云蛾馬迹迷府橋之東不見於圖西形如老云在
山有鮑郎祠
稽馬山在會里鉅者南鎮是為會稽計史力命曰會稽會稽
者年封地皇覽曰會稽山本名苗山鎮求與元洞曰陽明
十群僂所棲龜山陽明洞天皆仙聖天人却會之所二十石
率如張圖經十五里山在會稽縣東石帆如揚會稽縣東
丈中五里少紆狀如張忱又志云射的山狀如鷄人亦謂之石
鷄石箐如藏壁立於雲升者累而有石箐石鷄如翔石
望匪泥帆並見石石甕匪携甕時人謂之秦皇東狀如香
爐自室會稽一峯狀如香爐山謂天柱可梯九山越春秋

天柱山一名天柱山在會稽縣東
如一名茅山為降僂有臺壘巖如云元堊山上有神山
上巖巖如藏壁立於雲升者累而有石箐石鷄如翔石
歌為巖壘而自來龍瑞翁經為穴探探史記司馬遷登會稽
年天降從文卷國飛來上有人名葛仙二條名為飛來石射
晉天降從文卷國飛來上有人名葛仙二條名為飛來石射
堂豐山之的射射射射射射射射射射射射射射射射射射
猴的士人常以古射射射射射射射射射射射射射射射射射
馬吳越春秋高天蓋度中權衡于北題東巡登衡嶺瑞
直海中之蓬萊舊志蓬萊山正對峙會稽沈神蓬至若味
山歸其東德四年置山在刻縣東三十四日唐武靈山乞

其西之山在陝西地四十里
陝西地四十里
陝西地四十里

亦左傳云在陝西地四十里
亦左傳云在陝西地四十里

自蜀飛來帶見蟬二十餘人
自蜀飛來帶見蟬二十餘人

以在蜀飛來帶見蟬二十餘人
以在蜀飛來帶見蟬二十餘人

精義名經山既越山自生環游
精義名經山既越山自生環游

動靈望似龜形或名怪地小梅山
動靈望似龜形或名怪地小梅山

野山在陝西地四十里
野山在陝西地四十里

禪方志云是而施羅紗慶今名
禪方志云是而施羅紗慶今名

蕩定雲壁立高一百丈廣數十丈
蕩定雲壁立高一百丈廣數十丈

山多青峯或四明競秀於天台
山多青峯或四明競秀於天台

順方丈題天證塵五雲中令之故居
順方丈題天證塵五雲中令之故居

補五色祥雲門寺十峯巒翼之招提
補五色祥雲門寺十峯巒翼之招提

十峯其水雙澗今天衣寺是也
十峯其水雙澗今天衣寺是也

之面兮沃洲天姥眉兮目兮白樂天
之面兮沃洲天姥眉兮目兮白樂天

天姥為眉目二金庭桐柏仙子宅兮
天姥為眉目二金庭桐柏仙子宅兮

之新昌南明山有室相寺梁建南岩
之新昌南明山有室相寺梁建南岩

寺新昌南明山有室相寺梁建南岩
寺新昌南明山有室相寺梁建南岩

山七年上會稽南四里又有望於南海
山七年上會稽南四里又有望於南海

泰望登洛思兮而思洛兮永興縣有各
泰望登洛思兮而思洛兮永興縣有各

泰望登洛思兮而思洛兮永興縣有各
泰望登洛思兮而思洛兮永興縣有各

山在會稽縣東一十里吳越春秋脩竹茂林緬想陳

迹考興地志云山陰縣西有蘭亭王羲之序云此地有

連山如珠秦皇之所驅考志云連山在蕭山縣西夏魯先

文之所割考學鳥山在蕭山縣東南方朔神異志云

北幹隱考明月在蕭山縣北陽詢詩云蕭山在

聯明劉真長莫日清東山卧考白雲迷東山在上真

安石高州之靈志白億少微寂考幽鳥怨少微山在會

十里戰方負外郎齊唐墓表云公退居湖山太白空考

壁猿啼太白山在刻西六十里與少白山連夏侯魯

之上有其水則洁森泓澄散漫縈迴漲焉而天風

焉而波淨焉如練瑩焉如磨溢而為江湖而為湖為沼

為汜為潢為汚隄為陂澤疏為溝渌滌而田疇淤而泥

塗生我稻梁溉我果蔬集有鳧雁戲有鱗魚實有菱芡

香有芙蓉鵝舟如擊晉安海物異名記越人水馬楫如

驅水越春秋越人以船龍天矯橋獸睚眦頭龍天橋橋

唯歌堰限江河津通漕輸航駭船閩浮郵達吳浪禁風

帆千艘萬艘大武挽緯五丁諫諱榜人奏功千里須臾

境絕利博莫如鑑湖有八百里之回環灌九千頃之膏

腴會稽後漢馬臻字叔存山陽人為太守創五鑑湖在

所餘以無少則淺湖既田如水多則開湖法田中水人海

昭鑑湖八百里蓋德言之錢浮質監之家以書賀知章

為道士詔許之州以宅為千室元常之都
十餘世至於元常越春人在鑑中舟行畫
帶郊廓其屬峯岫白水翠岩互相映發
若畧王免少云從山陰上各行如鑑中
人間所無壯五月詩鑑有菱歌兮聲峭
湖上菱歌若耶有蓮女子貌都西苑采
首春舟在歌女耶有蓮女子貌都西苑
子室銷漁郎兮嘯嘯東泛曹江哀彼孝娥
戲上虞人父溺死不得尸娥年十四
夫子胥取其在蕭山縣而十三里史記
命曰於胥山槩浦思夫槩之封槩浦在
以爲翁洲訪優王之廬翁州屬會稽郡
名沼吳國之左傳伍子胥白吳其心
變陶朱以史記范蠡事越既城吳乃乘舟
游若邪人若邪溪在會稽縣東南漢脚
為仙人取箭射洪其神人也曰常患若
朝何所暮北風後果然故溪風至興雪
今猶爾呼為鄭公風亦名樵風與雪掉
然名戴溪昔書云王子猷嘗居山陰夜
不而而反人問其故子猷曰乘小舟請
具而義之序云會于山陰之蘭亭修陶
亭也義之序云會于山陰之蘭亭修陶
戒珠寺在戴山本王羲之別了溪襲
北源出了山越絕書云刑塘築兮長人
大禹會諸侯于塗山執玉帛者万国
築於塘賀循會稽記云防風氏其身
故曰高塘臨之酌菲泉兮懷古會稽山
大禹會諸侯于塗山執玉帛者万国
築於塘賀循會稽記云防風氏其身
故曰高塘臨之酌菲泉兮懷古會稽山

變陶朱以史記范蠡事越既城吳乃乘舟
游若邪人若邪溪在會稽縣東南漢脚
為仙人取箭射洪其神人也曰常患若
朝何所暮北風後果然故溪風至興雪掉
今猶爾呼為鄭公風亦名樵風與雪掉
然名戴溪昔書云王子猷嘗居山陰夜
不而而反人問其故子猷曰乘小舟請
具而義之序云會于山陰之蘭亭修陶
亭也義之序云會于山陰之蘭亭修陶
戒珠寺在戴山本王羲之別了溪襲
北源出了山越絕書云刑塘築兮長人
大禹會諸侯于塗山執玉帛者万国
築於塘賀循會稽記云防風氏其身
故曰高塘臨之酌菲泉兮懷古會稽山
大禹會諸侯于塗山執玉帛者万国
築於塘賀循會稽記云防風氏其身
故曰高塘臨之酌菲泉兮懷古會稽山

自娛青卧龍山下州宅之西陽有清白堂其物則有魚鹽

之鏡沈立越州蓋為生竹箭之美則能會稽之竹箭

山涵海蓄言其有幾貢入王室利周遐迹耕焉目火釋

馬呂水漢書地理志云江南南風翼苗翠浪千里把

粒一空玉粒如時炊粳醱林既甘且屑屢棄之奇號為

第一吳錄太康地記並云諸暨境上諸山第一一屢棄

者一兩至龍精僊僊吐絲滿室香書曰蚕為龍精

化其狀屢萬州千華機軸中出綾紗繒縠雪積燕匹

越貢花紗白編綾輕交綾綾輕容生木則楓挺千文山

志云天姥山有窠封五夫封上虞有地名五夫始皇桐相

合生乘縣金庭觀道經擦紫異隅輿地志云餘姚有種

水不離他水一角純菓文梓梗柗官家越王使工八好

一木天梓除為一雙六杖王櫟柗楮榆與有柗

客兒連作詩與句刻於其上虞有山下多柏

連理之柯有諸暨有木連院因合抱之株迺斤巨與

呂廬迺有蕭山陸吉東黃甘陸吉諸暨三如蓋經三

如謂如錦之素如胡柗成林賀瓜粥區不雅梅中有王

氏橋園胡氏梅山實素實全赤擒腮半朱火榘殼玉櫻

挑薦珠鴨脚含黃鷄頭去廬百益七絕之奇瓜雅樹木

以損一益新百益一損隱居云山陰蘭亭九多木瓜梨

四無益五霜葉肥火雙頭四角之殊夫俗言雙頭蓮罕雅

六嘉實七落葉肥火雙頭四角之殊夫俗言雙頭蓮罕雅

分角別惟武陵記云四角蔗有崑崙之號兩本草注甘蔗有

赤巖出江東會稽梅有官長之呼越有揚梅一絕佳

蔓生則馬乳蔓真土實則鳧苳慈菰野藪窳毛園蔬

木菌湘湖之萁箭里之荀蕭山相湖出萁菜可薦可羞

采獲無尺鱗虫水族海生池養丁首丙尾鱗腹縮項赤

文鱧元鱔黃鯪以上魚名並載於前經戲人駢集

以網羨金繪玉不數熊掌能言之鷺善鳴之鵝陸龜

言善為之鷺輸芒之蟹孕珠之贏文身合氏之子有始

亦故謂之文始元微之詩卿味尤跋足從事之徒之元

街填巷委與土全多異獸球禽骨銅吐綬銅在

會稽縣夏虞先曾地志云昔有銅牛見於靈祀橋入遂

以鷓鴣文來五色口吐綠猛虎負子蕭山有去虎山本名

浙德四年六月縣社守一因政名馬唐鳳栖鹿化

萬齊則送出之妙惟此鳥在馬唐鳳栖鹿化林會稽

起春華公會諸疾于稽山因傳國政鳳栖鹿化林會稽

技龍瑞眉經葛仙詩苗山會計通書曰戲鳳栖鹿化林會稽

凡化為白鹿三足號為鹿跡山鶴拾雁釋記云射的

志南有白鶴為仙取箭於此化鶴州山上虞有雁田民

秋春其草根熊羆狸豹猴獼猿狢鷓銜鷓吐子野

生鷓鴣求鷓鴣浮鷓浴雅鷓秦鷓如少游詞寒鷓萬毛羽

登蘭泗鷓寒躬瘦若多詞寒鷓秦鷓如少游詞寒鷓萬毛羽

有燕胡燕肥越燕燕有巧婦錐喙巧婦錐喙

尾長味短禽經曰陸鳥口樓山水鳥之尾宿多修水禽之尾多

在江湖為籠山林為圃巨牡丹巨牡丹巨走甲名園

奇葩異香牡丹如洛芍藥如揚州公花品序牡丹西

南出越州出洛陽者為天木蘭載新使院不馳之

海榴懷芳不州宅舊有海監列亭唐李紳詩懷方

唐李萼尉立丹目之日菊山蘭亭園香越絕書

天衣杜鵑每歲盛開觀者集最奇東山薔薇白

湖映香靈越多梅以檢得名鑑生才

華駢巧天女效奇桃李漫山臧獲賦之藥物之產不知

其名白茱丹參甘藷黃精兵莫越桃山一為糧石

英地志曰昔彭祖服之而近於彭山在會稽縣北

之而飛昇高冠此有仙岩昇日鑄雲芽東南五十五

甘液華滋記以建溪日鑄玉云月龍茶冠吳越瀑嶺稱

仙茶市嶺者號仙茗茗山閣好編而其上多奇茗顧

清爭先建溪全蛋張應飛王既濤翻皓生兩腋之清風

興飄飄于蓬島刻藤香番管城班班有出於剡翰文

出等管冰敲嶽水云越石呼殿水此為巧手竹翦顧園

送異記越中製於蒙蔡之手游於羲猷之間友陳元與

有願家班竹製於蒙蔡之手游於羲猷之間友陳元與

端紫全文字於人寰至若龍護金書

山禹一龍自得之唐元二年

齊書志云本會稽刻石

小石生其云字不可識

金玉山金海經云多珠石邪董銅錫

之璧光出丁中其處得之

笛與竹地志有奇響因取以

前王有方石八廣十丈云是

蔡邕有方石八廣十丈云是

出與蕭語將時別贈墨二

聲聞洛陽會稽黃銅漏注

一云禹冠會稽石千為定

上代禹冠會稽石千為定

云禹冠會稽石千為定

不聖可容以斗為

親聖胎神蹄石產

先思胎神蹄石產

神木結山竹色皆黃狀如

龍瑞玉子書於

金簡玉

石上不知文字

大石文立石

此世傳名

之鈞鋼錫

秦皇之石

淳碑斯篆

江筆肅墨

方注周易

會稽城門

禹支陵

雲金履鐵

元嘉中

分明明

射而後

草諸黃竹

神木結山竹

苗漢章竹簾流黃筆貢錚于周樂會稽止痛之木王
活人之艸郡國志云會稽橫山更有草止痛之木王
不騷年傳句殘事之蕭有別張遠材負枯
寂祭而華舍賦石向宗墳如新昌石助墓前有生柳
則有四明山生一枝石如或高三尺野花業生人云瞻
天雨錢而山儲粟軍有禪房寺德經感云齊天南皆山皆
希世之奇迹蓋欲言而不足其人則見於吳越春秋會稽
稽典錄國經墜志歷代東牘大書持書班班滿目孝者
弟者忠者義者廉者遜者智者健者優於文詞者長於

吏事者揮秀科目之榮者策名卿相之貴者致身官戚
仁者隱居以求志者埋光屠釣之微者晦迹佛老之異
者虞翻之言有所不能盡朱育之對有所不能既贈
云孫亮時山陰朱育少好奇字作師門下書佐仲而未
物翻對也書佐仲識之于亦馬能綏數之哉姑摘其
尤之一二前則種蠶計硯號賢大夫按吳越春秋越王
說最後則嚴助買臣直承明廬會書嚴助朱買臣直承明廬
會中後皆孝悌則張萬和之父子唐張萬和諸聖
二十餘年萬韓靈敏之弟昆齊韓靈敏弟昆齊
冬子亦餘廬韓靈敏之弟昆齊韓靈敏弟昆齊
以常生共種瓜半鄧斯祁樊自發以代臯朱育
朝紀生公憲自發以代臯朱育
山叙紀生公憲自發以代臯朱育報讎而白

開白... 日... 朝... 華... 邑... 尚... 章... 董... 穎... 盡... 心... 色... 養... 喪... 致... 其... 人... 為... 傷

長... 或... 濕... 衣... 以... 障... 火... 興... 母... 會... 籍... 人... 所... 病... 亡... 刺... 殺... 其... 子... 傷

身... 或... 泣... 血... 以... 戢... 焚... 許... 伯... 會... 蕭... 山... 乃... 遭... 母... 喪... 結... 廬... 身... 火... 燒

或... 銜... 象... 而... 廬... 墓... 山... 陰... 鍾... 離... 許... 伯... 會... 蕭... 山... 乃... 遭... 母... 喪... 結... 廬... 身... 火... 燒

行... 而... 名... 里... 聖... 賢... 王... 知... 元... 父... 喪... 哀... 毀... 卒... 高... 宗... 改... 為... 孝... 義... 聖... 為

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

孝... 義... 其... 行... 木... 與... 郭... 世... 道... 負... 土... 成... 墳... 墳... 素... 或... 以... 義... 而... 旌... 門... 山... 陰

身不顯或遭寇劫賊死不為守節卓行則鄭

意朱雋戴就舉於孝廉後漢鄭洪

虞潭孔奐沈融朱仕明舉於秀茂

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

趙麟山陳子公邊侵陞之藩

道林靈澈晉僧也筆札則孔琳徐禕宋孔琳之皆善草書丹青則孫遇道芬名芬皆善畫吳範嚴瓊夷吾字介
元明則李舟丹青則孫遇道芬名芬皆善畫吳範嚴瓊夷吾字介
初唐五雲門外州人登其坊有方士皆隱
充符後漢嚴光以子隱士當之
人基俱善文時吳融十詔成於微刻宗時為翰林李
籍奉行可德山陰人與從兄德基以文辭稱
唐寶曆中為翰林李籍奉行可德山陰人與從兄德基以文辭稱
籍奉行可德山陰人與從兄德基以文辭稱
籍奉行可德山陰人與從兄德基以文辭稱
籍奉行可德山陰人與從兄德基以文辭稱

神仙則劉晨阮肇續齊僧記漢永平十五年剡縣有劉
孫至家並無相識得七代迺有谿上浣紗之女有西
妙流林問舞劍之姝王越越王聘之問以劍賦於南
天下杜詩越女氣雄萬夫越女論劍曰聞斯道者一人

項氏崛起也有八千子弟史記項羽起會稽得精兵八
量而車載矧歷世之人材亦足明其大槩建我國朝

尤號多士二百年間不可勝紀大則杜正獻之勲德杜

籍人謚曰正獻次則孫威敏之功名孫大寶沔字元規

姚石郎司元祐之直姚勉字夢祥一字守道

魏人謚曰正獻次則孫威敏之功名孫大寶沔字元規

姚石郎司元祐之直姚勉字夢祥一字守道

魏人謚曰正獻次則孫威敏之功名孫大寶沔字元規

姚石郎司元祐之直姚勉字夢祥一字守道

魏人謚曰正獻次則孫威敏之功名孫大寶沔字元規

號江南之英詩云內翰字子效會稽人來皮贈萬石雲

仍匪建則慶新朝石氏為東南名流二陸棠棣如雲與

衡左丞田字農師弟傳字陸吳先生風高於賀老吳先

有嘉祐存君子以名士捨名為實官一等齊職方迹擬於困

明齊賢自為詩云直當山面方員外郎退居湖山名揚

錢氏世賢科之盛錢內翰易會稽人景德三年中制科

史門繼衣錦之榮劉中史氏兄弟相劉求呂義門

或覽古以不詠故朝奉人夫華君名鎮士仲

或編而著名諸葛深字通南總集歷代帝王年紀

至若聯翩桂籍倪耀響纓名登史策足疊天庭蓋嘗

詢之故老往往其識其名矣故千岩競秀萬壑爭流者

願長康之言也劉長康世說云願長康從會稽還人

山轉遠轉高水轉深轉清者李浙東之記也唐李遜游

轉高州山水轉遠瑰奇市井佳麗闐闐者白餘杭州

詩也白餘天賦元植陽明洞詩忠臣係踵孝子連問

者虞功曾之對也吳是以忠臣係踵孝子連問

敢不越之山川風物其大略如此子真始驚而疑卒

歎而敢曰壯矣哉盛矣哉山川如斯人物如斯吾未之

前聞也然越在春秋僻處東夷夫子作經導為於越其

人材風俗固未可與齊魯晉衛諸列國抗衡也今有君

所稱幾不容口豈昔日遠於齊魯會者未如王景興

之言邪王景與問黃...

子為漢名卿畫綉故鄉夾道郊迎爭觀快觀歆豔其榮

故其俗始尚文學而敷功名魏朱買臣貴顯漢朝太

會蘭亭不觴曲水臨池墨妙輝映千祀能使遺文感繫

君子故其俗始尚風不而多翰墨之士晉王羲之除右

元微之一代奇才罷侍玉皇請居蓬萊賓賓都白唱真

往來繫是豔胡秦望之奇益聞故其俗至今好吟詠而

多風騷之才唐元稹字微之官相為浙東觀察使

茶吏益傳時子適亭純目微之州宅詩云我皇香

應省事寂寥無後不獨此數君子也任延張

霸以尚賢為治而俗始貴士後漢任延為郡尉會稽

野儀嚴子陵持以師友之禮郡中賢士大夫爭往

靚翟用者以千數劉寵車後呂潔已化下而人斯尚

清後漢劉寵為太守郡中大化曰為持大匠受之

檢公為太守第五倫下令而淫祀之風革

常且先祭神財產其自食牛肉而不以薦祠者發

後諸葛恢復政而陵遲之俗興

會諸音之關中政之所先君為言之

風給凌遲且尊五

...

至若李唐刺史九十八
公皆名曾二顯有姚崇

國經十子都績稱雄
王時變弊知勤
執計元之

正元寶宰相以名見于
李結元煥王式弟龜

國朝達今蓋百餘
政前有文簡後有文正
題名所記比

唐為盛時賦詩題
非一始於學文簡
公士安承宣得人

風俗斯美蓋亦理之然也
子真曰是誠有之然皆二千

石之事尔未足多也
頭聞其上者有君曰昔勾踐懲會

稽之樓也史記越王伐吳吳保樓於會稽
庸石室之

辱也吳越春秋越王入臣吳於石室
寡自水足抱

冰握火越王念復吳嘗苦身勞心夜以接日自卧則切

采蕨于山越王為吳王請悉滅病口臭范蠡乃左

置膳于坐膳飲食亦嘗膳也曰汝忘會稽之耻

葛婦興歌名曰何苦其詞曰嘗膳不苦味若飴令我

采葛以作絲吳越春秋越王使國中男女入山采葛作

之若乃作何二十年間焦心苦志卒滅強吳
臣雪前恥

越絕之稱權輿於此越絕書聞者曰何謂越絕越者目

故其俗至今能慷慨
臣復讎隱忍臣成事若是何如子

真曰茲百者之事也傳不云
寧碎而王駁而霸彼齊威

晉文之盛猶不足稱於大君子之門
况勾踐虛有君曰

昔禹治水之畢與群后計功
苗山更名會稽卒而葬焉

祠廟陵寢于今尚存越絕書禹葬於會稽山吳越春秋禹

等越絕書少康立祠於
上有費井會稽山

有謂禹穿鑿故因名之下有禹而飲者莫不發免

魚之歎興河洛之恩不獨勾踐有其烈記馮烈有馬

侯嗣其功馬至今其俗勤勞儉嗇實有禹之遺風

若是何如子真曰美哉禹功宜其代舜而有天下也游

於是窆於是廟食於是茲所以化被万世之父也然說

者曰為入聖域而未優其必有大於此者寧有君曰舜

生於諸馮孟子以為東夷之人歷世逾遠不傳失真太

史公曰為冀州然邪否邪非東夷也與孟子之說異然

越之邑則有上虞餘姚禹於此故曰餘姚一曰謂山有虞山

邑有姚後支庶所封舜姓姚故曰餘姚一曰謂山有虞山

歷山禹在餘姚西三十里一云在上虞之東八十

昔舜耕之所水有漁浦三無是舜漁之處又上虞有

地名漁濱虞水經焉石八東海江裏有上中下三無

無三墜則有姚丘百官十里有姚丘丘去上虞四

會稽平章百姓今上虞有百官里馬有窠上虞有窠里

此陶焉有灶上虞有古陶汲焉有井三井在上虞西

水在縣南二祀焉有亩舜亩在上虞縣皆其遺迹也意

者不生於是則游於是乎舜為人子克諧曰孝故其俗

至今蒸蒸是劬舜為人臣克盡其道故其俗至今孳孳

是蹈舜為人兄慈怒不藏故其俗至今愛而能空舜為

人君曰天下禪故其俗至今廉而能遜若是如何了真

矍然離席而立拱手而對曰哉意嘻尽善尽美雖甚

盛德蔑有加矣昔季札觀水而止於韶自韶之外不敢
觀余問風俗亦極於舜自舜之外不復問矣無安先生
繁然失笑於旁曰固則子真之間有君之命也茲皆古
之越非今之越也人死骨朽世變風移山川雖在人物
已非前日淳朴及而澆為前日廉遜及而爭競前日勤
儉及而矯怠前日忠孝及而凶悖尚何執紙上陳迹而
誇說其類吾邠有君曰先生之言是也然風俗不常矣
亦不常弊善為惡馬雜人是繁今 朝廷駐蹕東南越
為鉅藩密迩 堯天蓋尺五間 帝命重臣來鎮是邦
入境問俗登堂觀風 龍山有 因舜禹之遺化明 吾
君之至仁布德教於黃堂變陋俗而還淳矧何世之無

才亦奚有於古今子不見夫銜命虜庭死於 王事如

陳公張公者虜 陳公名通 張公名宇 發靖議禮靖康

赴難建炎如華君傳君者虜 華君名初 平靖康初為太

人邪又不見夫姚江陳公 陳公名景 所臨有聲亦克之還身

名兩縈執政李公 李公名光 忤意權臣老於淪落世賢其人

愍孝蔡子掄生可悲同彼旌忠廟食于茲 蔡孝子名旋

請代弗許遂自沉于河竟既父罪事問乎

隱吏王君 王君名若 公哀手斬發斬讎者名一

門可稱賢父唯兄茲固先生日所親覩也安知後之賦

今不猶今之賦古虜先生 有君越人也知越之風俗

而已矣昔子虛夸雲夢爲先生說釋亡是公折之曰
上林之事今越未足侔齊楚之大尚何足曰夸之有君
曰昔吳子問柳先生曰晉國之事而柳曰晉對今子真
問余曰越國之俗而余曰越禽亦各因其所問而及之
尔余豈嘗然無聞無知於越之外哉今天子披輿陸
之園思祖宗之績求治如不及見賢而太息
文德既修武事皆閑蓋將舞干戚而服遠夷復侵疆而
旋京闕余竢其車書全南北一傲吉甫美周室賦崧
高歌吉日招魯公命元結磨蒼崖秃鉅筆頌中興紀
洪烈邁三五曼前牒巨天地昭日月於是窮章亥之所
步攷神禹之所別覽四海九州之風俗掩兩京三都之
著述騰萬文之光芒有皇宋一統之賦出回眦會稽
蓋甄陶中之一物無妄先生自知失言色有餘媿迺與
子真逡巡而避有君退而傲於南窗有飄上凌雲之
氣

民事堂賦并叙

堂名民事志 天語也其俗負越幕歲將暮顧惟不才
膏然無補日且歎官曠職爲憂所幸黃堂主人甚賢同
僚皆士君子朝夕講論無非民事之要者因爲之賦曰
志其一云

繫越幕有下僚子名所寓曰民事之堂誦天語之丁
寧子銜 聖恩而不敢忘 民脂曰飽妻子子猶

之偷太倉苟不民事之是已乎又將吳道厚天賦以會
稽之大府乎罹薄歲之凶荒颶風作於孟秋兮雨浸淫
而異常天吳怒而江濤澎湃兮飄廬舍而壞隄防案盛
害而歲大侵兮民餓踣而流亡射的黑而米斛千兮類
蓼花而為糧是歲飢民類痛瀕海之魚根而食蟲兮壅江魚
之腹腸者幾百人予嘗告其故於前使君兮請敷奏
於岩廊顧幕中平日之辨兮人迺斬其為狂會伯尊之
傳召兮達民瘼於九重予殆有類於輦者兮亦何恨
夫言之不庸洪惟當宁之至仁兮視赤子其如傷蠲常
賦而救天菑兮出內帑之所藏哀東州之無告兮惠吾
民呂龔黃左公孝而石孟博兮相與協贊其惟良先撫

字而後催科兮正今日之所當寬公私之積負兮日俟
庫歲之豐穰省訟牒之煩苛兮抑蠹政之豪強節無用
之浮費兮俾斯民之小康茲政事之所急兮敢不忠告
庫黃堂至若鑑湖利及九千頃兮日侵削而就荒歲和
買無慮十萬縑兮曾無一錢之償權酷之利半奪於有
力兮財賦浸巨荒涼兼并之弊熾於大族兮編氓餒於
糟糠茲又越中之巨害兮姑略言其大綱若夫民事之
在天下兮固不足且知其詳有一言且盡之兮曰生之
而不傷擇守令兮去姦黠慎弗擾兮如牧羊茲賦賦之
倦倦兮願入告于天王

越中自古號嘉山水而蓬萊閣實為之冠昔元微之作
州宅詩世稱絕唱近代張公伯玉三章膾炙人口好事
者從而和之獨未聞有賦之者某筮任之初辱為蓬萊
客適者中秋之夕與同僚會飲于茲閣覽湖山之勝說
月于樽俎間即席賦詩諸公皆和既而念之閣不可臣
常登一詩不足且盡意遂從而賦焉

王子游會稽客蓮幕登卧龍之山躡巨壑之閣秀閣千
岩深觀萬壑終遠目於東州暢幽懷於廖閣于時天高
氣肅秋色平分簪蓋良朋把酒論文俯仰湖山懷古傷
今登高賦詩且寫我心周覽城闔鱗鱗乃戶龍吐成珠
龜火東武三峯鼎峙列障屏方州水籠蔥煙霏霧陸棟宇

崢嶸舟車旁作北百雉之巖垣鎮六州而開府東望稽
山思禹之功喬松鬱厚故陵丹青嚴於祠宮藏丹書於
黜冗不遺畫於無窮南目秦望哀秦之過方鑿石且頌
德驕顏色且相賀嗟仙藥之不來俄腥風之已播西望
夕陽送目蘭亭懷王謝之風不感斯文而涕零徒觀夫
茂林脩竹鎖烟靄而冥冥北望滄海渺其無涯方吳門
之畫龍視越國其如蛇轟雷鼓於一震虛吳國而成空
訪麗譙之故址第見摩古木之號鴟前瞻鑑湖滿目雲
水嘉馬侯之偉績慕賀監之高軌祠荒兮遺迹半湮宅
冷兮黃冠無幾徒有漁舟買楫風樵航常往來摩鷗
之鄉歎乃摩烟波之裏仰瞻高閣羣飛崔嵬俯瞰州宅

緬懷高才而無時之屏障家終日之樓臺長湖山之僧
於几席之上惜斯人之安在哉言未畢客有指斯閣而
謂予曰子亦知夫閣之所自得名者摩蓋始於元和才
子也臣王皇案吏之尊擁旌麾於千里也蓬萊隔弱水
三萬里臣筆刀坐移於是也齊名有白後事有蕃尚月中
有萬頃之湖真一代之奇偉也詩章一出遂能發秦望
之精神增鑑湖之風采蘭亭絕唱亘古今而莫擬也子
亦讀夫才子之傳否摩姑問訊其從何而來集摩彼而
至于此也才子之才固足引起吾子數百年之聳慕才
子之所自獲侍玉皇者亦吾子之所喜攻而深耻也夫
何昔之有子於是引客之手揚袂而起言契予心諾諾
唯唯有是哉斯人也而至於斯也尚忍言之哉俄而鼓
角作於人間明月出於林端妙三弄之梅花爛十分之
銀盤鱗一觴而徑醉有不盡之餘歡頃之陰雲忽與點
綴青天漸山川之蒙籠若有妬摩婢娟倚危闌而感慕
竟興尽而思旋矣於是相與贊喜於清白之堂敬盡於
清白之泉閱唐宋之題名終夕為之慨然嗚呼噫嘻死
者可作吾與誰歸其無出摩文正范公之賢

梅溪先生後集卷第一

梅溪先生後集卷第二

詩

丁丑二月二十一日

集英殿賜第

天下天子崇儒術寒賤書生可作成
視市育才叨合選
楓宸唱第冠時英聖恩寬大容愚直
御墨褒嘉佩寵榮
却笑劉賈不遺際徒令紙上有虛名

游天竺贈同年

雅會清時不易逢吾儕今日此游後
逼人英氣湖光瑩
照眼恩袍草色濃
文盛一時俱俊傑
名先千佛媿疎庸
致身許國宜相勉
莫羨平津但取容

贈閻同年

飄飄吳蜀兩衰翁，尊酒論文偶有同。名在儒科雖後我，言關國體豈如公。休嗟世路多巖嶮，共報君恩有撲忠。此日遊從足可惜，行將渭北與江東。

閩和詩叙別再用前韵

我本東嘉田舍翁，登科偶與蜀龍同。盍簪經月欽高誼，分袂令人念此翁。幕府可能淹俊傑，宸襟應亦記精忠。他年攬轡游吳越，訪我茅廬浙水東。

贈梁同年介

君家錦水邊，我居浙江東。各在天一涯，芳尊偶相同。君方富青春，勁氣吐長虹。我老志亦衰，荷麻媿蒿蓬。會合已踰月，周旋見高風。夕客思故鄉，言心各怱怱。贈君無別言，相期及孤忠。

次韻陳大監按見贈

中興天子尤崇儒，衆賢彙進如聯珠。鄒枚待詔奉金馬，臯夔接武相俞都。策士初期異人出，不尚虛文與聲律。况當盛世多賈生，晁錯豈容為第一。自慙俗學非名家，遺經獨抱居東嘉。壅壘太學浪十載，豈有文許時人夸。每言恭奏宸庭策，狂妄誤蒙明主擇。生天偶在千佛先，材劣名浮有餘責。穎川丈人詩絕奇，長篇勉我毋差時。欲報君恩答知己，曾中耿耿何當施。

次韻劉長方司戶見贈

楓宸昔羨君登第，蓬幕今慙我幼官。相見可差頭雪白。

若未自合量俱寬不嫌此日成名晚最喜平生取友端
待報君恩知死所却同神武掛衣冠

陳大監用賞梅韻以贈依韵酬之

穎川丈人賢矣哉青眼喜為清流開詩章翰墨兩奇絕
筆下一字無塵埃品題人物獎後進播紳樂喜公為魁
東嘉賤子生太晚惜幸識此真人才竭來西遊也不惡
錦囊所得俱瓊瑰區區科第何足道此行似為詩篇來
客中拜賦更重複丙穴魚及郢筒杯歎近以寒鄉故
舊問歸案首言帶得公詩回

大監復贈詩紙尾有留餘語再用韵以謝

平生漫學字乎歟哉心茅習練鋤不開得公新詩一耳讀
便覺骨字清無埃銀鈎妙畫發光艷照眼有如參與魁
鍾生肺腑非太白公似工部尤怜才旅中屢獲錦綉段
但媿欲報無瓊瑰豫章一榻不長下賢非徐儒安敢來
荷公此意最敦篤一笑當奉論文杯鄉心如飛不可遏
更為長者遲遲回

謝陳帥兼贈 御書孝經用陳大監韵

輦轂之下完彈壓茲言雖佳未足法丈人身居彈壓地
撫字心勞民自洽神聖當天萬物春王畿共理嘉得人
雲漢昭回賜優渥不特為公端為民聖經一章公獨得
三堂惹爵生春色賢哉名卿才大夫匪懈事君端可則
石刻分餘猶及我榮耀驚閩浙江左從今都屋光屬天

更有寵褒雲八及某朝曰建德縣公勉為不朽傳長
如治吳與治川要令列郡法青白了無一吏橫索錢

陳大監錢別用前詩珠字韵以謝

寒廷繞胃先諸儒寵褒况獲驪龍珠續韻青枝黃牒拜
君賜紅蓮綠水官留都明日為舟欲東出訪別長憂礙
新律文人呼酒如韓公賤子媿非張十一酒闌未放客
還家活火煎泉烹葉嘉西來頻下豫章榻盛事當作還
鄉考始終尚賴公鞭策邪正途中知所擇捐軀誓報明
主恩青史庶逃千古責况公自是人中奇境鄰已望逢
明時行持從橐奉清問美惡願分媿與施

用陳大監韵謝王國錄李煮見贈

吾宗神秀時名儒贈我三百隋侯珠野人不識希世寶
但見照眼清而都我昔遠從鴈山出旅食賢閔淹歲律
雅欽陸子常患多更歎張融可無一長淮父絕誰起家
青箱有君殊可嘉祠科得雋誦子厚何止文許後生夸
我拙慚無濟時策老境初官尚何擇江南蓮幕君故鄉
竊託聊逃簡書責寒賤誤蒙君見奇祖別贈言祭一時
明日東歸詫問里五絕首称虞伯施

陳郎中公說贈韓子蒼集

唐寒詩人六七作李杜韓柳歐蘇黃近來江西立宗派
妙句更推韓子蒼非坡非谷自一家鼎中一鬻曾已嘗
丈人琢重贈全集開卷爛然光焰長詩如此公固足貴

賜者仁出尤難忘兼金白璧不足道
蘇生幸脫場屋累老境欲入詩門
壻古詩三百未能李
句法且學今陵陽

章季子贈端硯

有客贈端紫剛方如正人
裔傳家万石力助筆千鈞
磨鐵嗟吾老著書欣爾新
何當與毛穎相約侍嚴宸

次韵陳大監赴天中節宴

聖主仁心等南北燧息邊庭
兵不宿兩階干羽來遠人
大度端能包濮祝萬歲三呼
誕彌月四海千秋太平曲
宴開文德賜群臣喜溢天
顏明四日向來獻壽人誰
在元孰重登共懸逐武夷
戎監老風騷去国十年官始
復揮觴首賦天保童遙指南
山祝君福更獻曲江金鑑
錄不但能歌連理木賤臣
逢時最僥倖歸美寧辭管
城禿頤同韓愈頌元和兼美
武公歌綠竹

謝李侍郎琳贈御書

君不見西京孝武稱材雄致治
欲與唐虞同詔求賢良
論闕政翻取曲學公孫洪
又不見文宗在唐號儒雅
制詔勤勤策群下劉蕡切直
棄不救卒使太阿歸宦者
吾皇策士親臨軒不為故事
求空言猶疑有司効馮宿
或恐前列登公孫九天賜
下飛奎翰照眼昭回倬雲漢
抑尚忠諫有訓詞品題高下
由宸斷儒宗被命持文衡
銀鉤拜賜恩非輕婦將樂石
刊聖語分賦下及狂愚生

賦賦倦倦蓄忠憤射策自慙言不及亡日倘陪鴛鴦行
願効魏公據底蘊

塗中得寶印叔二詩次韵

十年行役厭間關一第初收髮已斑重念此生難報處
君親恩德重丘山
雙親不見不勝悲銜恨何曾有佳時二叔尚存俱白首
婦來猶足慰衰遲

次韵寶印叔題壁二絕

風掃園林萬木殘道人眼界却宜看北窓跌坐對松柏
人物青青俱歲寒

早已心清不二門倘將土直與人論未須隻履西歸去
且作人間老世尊

萬府君挽詞

不廢東平業思興畢萬門短檠書自照鐵硯志長存冠
玉貧寧以蘭亭秀更蕃一門今盛大詩礼荷公恩
肯歎儒冠誤長隨奉子忙阿戎成雅志小院發幽光原
吟鶴猶近椿摧桂始芳老成嗟不見猶記貌堂堂

致政宋承事挽詞

南玉盈庭戲綵衣顏如童子壽期願臨行四絕勝四得
遯世五休高五意藍袖晚霜 天子命芳博首致使君
詞誰云汲冢藏書富應魏無公千首詩

張德惠挽詞

隱居高躅已茫然潛德如公亦足賢早見鄉評祿孝子
曉聞詩史記凶年事殊伯道兒宜有行過王達廟已先
瀟履玄談共誰語九原歸去訪伊川

宿羅漢三絕

梵舍十八所道場皆矩羅茲獨號羅漢想應無編多一
雁蕩屢經眼箇中方再游何時脫塵鞅來此飽清幽
故鄉從此去借問幾時還先去自思兄弟那堪宿雁山

游大龍湫和前韻

十年重到大龍湫千尺新流勝舊流會見四方霖雨足
老龍還向此藏頭

游靈岩禪老索詩至靈峯寄數語

雁蕩冠天下靈岩尤絕奇烟霞列屏障霞日月明旌

旗辨前有卓筆筆筆可以書唯詞天聰况非遙天

洞潤然聽無疑頭起靈湫龍霖雨行何為頭用真柱石

天注永支廊廟危頭廟造化妙精精四海歸溥照鎮招

寫鳳友朝朝廷相羽儀何人夢石室知知室真真交誼夸

一時那能了世緣未免貪噴巖名山誤見汗公議安可

欺願借靈湫水一洗了堂碑詩以寄老禪狂言勿吾嗤

題瑞岩

雁蕩看不足瑞岩游更貪闕奇雖有規蘊秀了無慙閻
古水鳴玉寺幽山染藍忽忽一宿去未暇問三三

題天台國清寺

十里松聲接澗泉清音入耳夜無眠詩有晴宜於四絕
中稱絕四絕詩誰向三賢後更賢斷驀寺就已無陳
日月詩建於陳時清長是家山川初智者云此寺藏國
清明朝杖履尋劉阮不待挑花入洞天

題大慈寺

蕪嶺迢迢入翠微梵宮佛窟鎖烟霏斷碑古寺曾經眼
剛笑陳隋往事非

題石橋二絕

路隔山九意可通石橋容我踏長虹橋旁方廣人游又
不在登臨杖履中

石橋未到已先知入眼端如入夢時僧與我為嚴

首坐前生曾寫此橋碑天台石橋記乃求真僧嚴伯成

萬年贈近僧負老

夢魂驚斷石橋邊身帶烟霞入萬年賓主相逢意良厚
永嘉縫掖永嘉禪

學通儒釋浩無邊江州聲名二十年見說僧中有論議
欲從師向此來禪續能談

過鑑湖

翔風吹水鑑湖寒千里扁舟趁暮官路入蓬萊天尺五
眼中見日與長安

民事堂

其家親權贊慕會稽 天語丁寧俾知民事聞命

驚懼規不克堪因榜所高麻合曰民事堂庶幾朝夕
不忘 聖訓仍書五十六字以自警時紹興丁丑十
有二月也

親擢深蒙聖主恩宜知民事訓詞溫仰惟睿意恩那本
要使書生識治原不憚勤勞覽禹會政忘精白奉先言
它時上問蒼生事頭竭孤忠慷慨論

臘月望日出郊探春游告成觀鵲大禹祠酌菲
飲泉遂至龍瑞宮觀禹穴薄暮而還

禹壑稽山不記年丹青落石厓依然神文秘在藏書尤
儉德流為菲飲泉龍瑞峯密高近日鑑湖烟水獨淨天
東州佳處畧經眼自笑好奇如馬迂

采戲

采戲思越王也越有山名戲戲蔬類也王所嗜焉予嗜
登是山故作是詩以思之

陟彼越山言采其茸我思古人中心悒悒維国有耻吳
弗違粒膳于坐偶霸勳以集陟彼越山言采其茗

山句踐日治山有我思古人中心炳炳維國有耻夕弗

違瞑焦心以思沼吳之境厭草匪甘厥蔬匪香維其味
之豈曰嗜嗜之心焉孔焦膳焉亟嘗唯其苦之是以取之

我陟高崗瞻望東越訪王之祀曠古有關宜有于山世
享不絕何以薦之戲若是類

秦望

秦望哀秦之過予茲山之不幸也

瞻彼秦望崇于會稽曷云其崇登焉而紫孰登是山而
方之人予瞻彼秦望輕于會稽曷崇而輕名之以嬴孰
名是山東方之人予我登稽山思禹之績吾儕不魚繫
帝之力我瞻秦望哀秦之過嘗彼黔首其誰之禍禹駕
而游夏民以沐有盟其行稷高是謀政轍而符嬴隨以
仆孰稔其惡斯高左右孤竹兄弟殍于首陽山與其入
嘉名孔章谿辱以愚泉汚以盜物之不幸名惡而暴折
溥如銀鑑流如紳冠彼崔嵬勿汚以秦

迎春遇雪

飛雪送殘臘帶花迎早春而晴可農事及煖是不耕人

元日冒雪赴天慶觀

朝拜既趨府拜表還舍飲屠蘇酒因思去年元
日亦不在家感而有作

幕府初官媿不才珥宮朝拜獲參陪藍輿去踏塊先雪
蓬鬢婦銜最後杯禹穴地幽寒未歇堯天日近暖先回
年年元日身為客孤負吾廬溪上梅

賀何正言用蔡君謨韵

御筆親除真諫官翕然輿論已騰歡正人得路言無諱
聖主虛懷听不難莫厭封章歲衣闕要令奸膽落毫端
鰕生雅服陽公德時把昌黎諫論看

寓小能仁寺即事書懷

小園青徑梅溪老綠水紅蓮越幕賓藥裹隨身多半夏
花枝照眼只常春時苦變數終眼半履郡樓鼓角听殊
遠僧舍鍾魚聞已頻窓外清風數竿竹澹然相對淨無
塵

同莫教授朱縣丞朱司理游西園

黎明出城郭偶作西園游春淺花未都池寒綠初抽湖
山欲縱目烟靄浮不收初來興非淺心賞殊未酬賴有
三君子清談洗牢愁更期春色濃携樽泛仙舟

次韵濮十太尉賞梅

春向群芳頂上來可人風味亦奇哉未於茅舍踈籬見
先為金枝玉葉開竹外橫斜幾點笛中搖落已千堆
因公揀我惜花意深憶去年湖上杯

題壽樂堂用東坡韵贈楊元賓舍判

蓬萊閣下蒼龍古萬壑千岩擁仙府壽樂堂西面卧龍
壑月岩風滿窓戶蒼松溜雨大十圍綠水浮荷深一股
作堂主人父黃壤仁智風猶似鄒魯詩仙騎龍已上天
妙句光芒照寰宇青山偃蹇只如昔高處去天無尺五
揚侯維泗老儒李文字撐腸筆風雨竭來替幕古東州
要與青山作盟主虛堂宴坐飽風月此外一毫端不取
它日後公物外游貝闕珠宮酌瓊乳

元賓贈紅梅數枝

江梅寂寞太絕俗紅杏酣酣風味薄梅花精神杏花色

春入遠別初破夢
曉曉者 膳瓶分贈兩三枝
醒我沉痾不須藥
時其在告願公及早辦 芳樽酒量冰飢易銷

廳舍有循竹數竿瀟洒可愛

誰裁窓外碧琅玕瀟洒尤宜老眼看寄語後人毋翦伐
更須時為報平安

龍端道士贈蘭

有客贈芳友贈端仙友 滿堂聞因香清含道流氣輕帶
羽衣黃綬佩風光別橫琴古趣長重須尋禹穴一曲所
揚揚道士善琴

吳秀才克家以壽樂蓮洲中干葉傳花為贈酬

以詩

東君次第染鮮芳更與南枝別樣粧水漲春洲浮鴨綠
日烘花臉帶鵝黃雪中變藥不多辨酒後玉飢無此香
錦紅玉潤冰清 居士驛筒相繼贈春光吳君乃揚

上下釋奠備數獻官書十二韵呈莫子齊教授
趙可大察推

嘗人呼東家陳蔡不火食當時雖高第性性亦溫色孰

知夢奠後廟祀亘無極宛然象冕尊玉侯面俱如武成
祭上戊龍棄配社稷隆殺養不同論功宜如德去載將

上座觀禮香壇列備樂闋九奏銀袍爛千億盛為客運

壽禮與進豆載登階瞻瞻容炳粹若親識壯武齊儀官

不為言矣國朝嘉靖中吳先生名克

會稽三賢祠詩序

越有三賢祠曰吳先生曰唐侯曰蔡孝子吳先生名汝
言事安定朝先生環以文行爾捨所居為府學有功於
風教為多賢於許詢賀知章輩一等矣唐侯名琦建炎
間越師叛命以城降虜侯奮自行伍憤然袖擊虜酋
至死罵不絕口有靖康李忠愍風非古刺客比也蔡孝
子心定以死贖父罪自沉于河與孝女曹娥相望於千
載間異世而同烈其比因上下至學見西廡吳先生有
祠堂詢之莫教授而知其事因語莫君宜有以記之異
公希府吏具郡祠殿所常祀者中有忠愍蔡孝二廟

命吏訪其詳因得舊越守傅公松卿登唐侯之文及
蔡孝子所親撰銘誌與越人題跋奏狀等嘉難者累日
因作三賢詩以記其大畧庶幾好事君子相繼有作以
發揚其幽光亦所以助

吾君旌遺賢獎忠孝激勸風俗之一端也

吳先生祠

安定先生賢矣哉一時高第俱英才詵然達者播廊廡
貧賤亦足光蓬萊會稽吳君更超絕至今士子猶能說
講堂鳴鼓規使君可使清風聳朝烈越紳士人言
駟鼓玉至孝以便服坐堂下先求田問舍遺子孫錢
地僻可紛紛不惜池塘種芹藥一段奇事前無聞君不

見唐公蓬山稱賀老乞得鑑湖歸去好却將儒服變流
沙更遣門闌亦歸道又不見晉朝名士高陽公謝安
今大能才名上下王謝中乃心欲出三界外山陰定化
瞿曇宮先生識見高流俗不作二公緣禍福寄語多才
鄭廣文乞與毫端記高躅

旌忠廟

國家往往艱難中搢紳節義掃地空靖康有一忠愍公
建炎獨有唐侯忠唐侯爵位何曾隆身居行伍儕輩能
平生經史漫不道敢霜烈日蘊在裏憤然一奮不顧躬
尉奪笏嗟忽心子芳鉄誰計已窮張巡就縛氣尚在
一 錮解罵未終忠血義而地紅烈氣英魂薄卷

朝聖閣

帝聰立廟旌

浙江東昨陽

名書青史等以當時問門誰納戎貽臭千古如期

此

愍孝廟

我昔嘗讀黃綸碑長歎越國無男兒孰知種山山下水
千載有此一段奇嗚呼哀哉蔡孝子風烈遠過恢與壽
乃翁白首困縲紲半年不脫兒心悲請身荷械代父罪
或甘懸涅居軍麾况遇兵興擊叛卒身先矢石死不辭
當時非無賢太守時守孝子抱志終不施人間無路
可赴訴投命河伯祈天知自為銘誌及訟牒欲懇以死
贖以完精哀意切語不怨孝與忠厚俱天資臨河更効

結纒之顛沛於礼曾無虧父財累囚于顛畢身在九泉
甘若飴名聞九重獲旌表賜旌旌孝風華夷胡為祠宇
乃如許一間破屋河之涓未聞設誅有度尚絕妙更欠
邯鄲祠我來黃幕欽孝烈顧瞻宙殿成吁嘻也年太史
作佳傳願於外是書吾詩

海溪先生後集卷第二

洪先生後集卷第三

詩

某比緣職事朝拜 殫宮瞻望松柏愴然悲淨
遂成小詩

崇觀升平主神游在九霄稽山屢茲禹窳海痛思堯天
上仙宮別人間寶祥遙微臣望松柏楚思黯然銷

鑑湖行

蒼蒼涼涼紅日生慈惠數數佳氣橫鑑湖春色三百里
桃花水漲扁舟行花開帝鳥傳春意若落行舟鷺鳥探
胡牀兀坐心境清轉蒼湖山有風來鑑中風物幾經春
身在畫中思古人禹跡茫茫千載後疏鑿功歸馬大

太守湖成坐見賁後代風流屬狂客狂客不長家鑑湖
惟有漁人至今得日暮東風吹棹回花枝照眼入蓬萊
回首湖山何處是款乃声中畫舫裏

禹廟歌

君不見見逢曾黃雌吞四海血祀初期千萬載稽山木像
棄長江送沂波濤鬼無餒鳥喙辛勤十九年平吳霸越
世稱賢故國無人念遺烈山間廟貌何凄然馬守開湖
利源迥歲沃黃雲九千頃年來遺迹半湮蕪在鎖湖邊
水烟冷吳越國王三節還及將錦綉畏江山自從王氣
熄牛斗庙比昭三屋一間迺知流光尚德尊祀典誰能
一見台九年洪水滔天流下民昏墊先心憂帝與萬國

三魚頭動禹洪範定九川功成執玉朝冕旒奔走訟獄
歸歌謳南巡會稽觀諸侯書藏地化千丈幽蟬脫塵寰
肯留千古灵庙依松楸吾皇盛德與禹侔菲食卑宮
惡衣裘思禹舊績祀事脩小臣效賦躬薦羞仰瞻蔽冕
懷遠猷退惜分陰慙情偷嗟乎越山高兮可夷而立鑑
湖深兮可埋而疇惟有禹貞声名長不朽告成世祀無
時休道觀名告成

與趙安撫乞疏獄

小麥青青大麥熟秧老欲移蚕欲簇皇天弥旬作淫雨
害及農桑一何酷麥枯秧腐蚕不絲無食無衣豈能育
使君今世賢方伯政過龍門司舜牧金調放官與私

言氣歡聲傾比屋仁風已慰黎庶心誠感蒼穹理直
胡為烝泄尚如許陰沴干陽埋日穀豈惟泥海園牛車
更恐魚龍上平陸閭閻競登指日蠻香火遙祈上天竺
傷和無乃有寬民蠹政尚疑多大族使君有術開青天
接効奸賍疏滯獄

次韵濮太守詠知宗牡丹七絕

憶昔洛陽花盛日品第况逢歐六一姚黃一品價無雙
更有左花千葉空

月破春色滿花枝國色天香照雪肌當日栽陪恐無地
如今誰保舊園池

開元往事感傷中遺種猶餘一樹紅借問通霄記妃子
何如及早念姚崇

春色遙興洛陽念風俗聊於記中驗今日苧羅山下魂
猶向人間吐妖艷

地近堯天饒雨露花王窈窕多風度書生不辦買花錢
空解搖毫為花賦

香苞初拆曉霞凝甲第名園冠紹興玉葉金枝老詩伯
更將好語為褒稱

造化無私處處芳家山想見亦春藏無端竊祿身為客
孤負吾廬十八香

送僧游徑山

青澗家風不蕪沒禪講說說三灰葛如今更有奇兒孫

云水飄然繼衣鉢徑山禪化僅中龍向來名節真無
我昔題詩已推許兩度相逢不曾語子今此行真得師
掃除妄想叩深機我待衣冠掛林下遲子歸來話瀟洒
三月晦日邵憲大受宴僚屬于西園某與馬趙
提幹濟即席賦詩次韵

送昌齡弟還鄉兼簡亭齡

送春開宴種山西翠幄重重眼界迷一段清和人共物
十分幽勝地臨溪鴛鴦曲水閣中集嬰燕落花枝上啼
賢榻獲陪文字飲不嫌蹤跡間雲泥

糶米行

勉力還家對燈火待看双桂擢秋闈時二弟赴補偶遺
昌齡還鄉夢齡留

送會稽林簿日華棄官還鄉

望秦秦望山蒼蒼未秋先作掃意濃三山深處孟園好
有孟園松菊恨君歸不早拂衣高舉追冥鴻不將詩別
水崖翁年來處士徑尤變美决清資等閑蹤君獨高

恭隱會林下何曾見一人芋魁豆飯吾亦有深媿折腰
貪五斗

戊辰歲嘗和韓退之贈張徹詩寄曹夢良至今
十年夢良方和以寄因贈一絕

欲識交情久遠期十年方和和韓詩他時更踐詩中語
借隱終山不可違蘇轍詩云有溪山
昔隱風雨無獨所

送趙可大如湖西

幕府游從盛一時之人襟宇更瑰奇西風莫作鮑蓀戀
越國江山日要詩

中秋賞月蓬萊閣呈同官

中秋觀月小蓬萊風送蟬娟入座來博俎論文清有味

湖山照眼淨無埃雲生脚底蛟龍卧影落人間鼓角俱
時方見
鼓角聲動把酒問天無問月何時此夜更銜盃

中秋見月方以為喜既而陰蔽意殊不滿東坡
云良天佳月即中秋不以日月斷也諸君有聚
會之約復用前韵

中秋翫月小蓬萊雲掩清光不放果頗竟襟懷增梗栗
欲凭欄檻掃氛埃清宵忽放嘉賓散明日還驚俗務催
底用區區校時節良天佳月即傾杯

記夢

九月初四夜夢待先入游家之南觀田園闕徑於杉
林之間昌齡弟亦侍其側指杉徑云此異日歸去來

之路也覺而思之於徑者三徑也淵明之事先君默
啓之矣書以記之

夜夢隨先君梅溪策杖於徑早開闢歸休預標榜魂
思驚曉醒精神發秋爽披衣照孤灯洒涕書憶况

士人僧道俱贈岩桂

岩桂來三家清標共秋風聯芳近禹穴擢秀疑蟾宮
騰金粟妍鼻觀天香通無心安區別妙契將無同

府吏有以老求退者詢其年猶未六十詰其去
之由云欲全身避禍耳予善其知機勇退可以

媿嗜進之士夫有感而作

升高嶺嶽墮枯壁蝸牛結指神鶴梁肉是亦蝸蝓徒由

身箠楚中勇退媿此胥衣冠與刀筆未可分賢愚

觀習水勝

漢武英雄思拓邊昆明習戰遺風傳吾皇仁心異武帝

思患姑為預防計尔曹生長行伍間操舟習水便江關

異日捐軀宜報國勿效水鳥為盜賊世之善水勝者多
為盜竊耳目水鳥

龍瑞道士贈岩桂

岩桂遙從禹穴來天香全似月宮裁金風漫峭飄龍腦

想見吾廬爛熳開

九日登巖山

九日同登古巖山眼明天濶興清閑杯傳但竟歡無不

帽落俄驚鬢已斑，緝思遙馳三徑裏。秋吉近在八水間，
菜萸未許陪朝士。賴有清流數往還。

亭齡九日有詩兼懷昌齡次韵

長記去年今日好，門外秋香噴沉腦。弟兄隣里同登高，
把菊行觴樂非少。山穀海錯鄉味佳，銀瓶索酒不用賒。
醉中不記脫巾卧，明日頭上猶黃花。今年豈不欲行樂，
竊祿東州官事來。那堪送酒無白衣，旋糶黃梁買棄落。
同如與子俱休休，誰能長抱離鄉憂。移書問訊惠連弟，
三徑許我歸來不。

贈莊童子

名大成
福州人

日誦千言七歲兒，方員動靜早能知。還家更讀韓公序，
器業他年必大奇。

送朱丞

一片秋懷似亂雲，不堪行客話離群。紅蓮綠水尚留我，
鉅竹老槐深憶君。千里從今遙共月，一樽何日更論文。
好將平昔家傳學，勉力登朝立世勲。

贈亭齡兼懷昌齡

我緣竊祿寓東州，子亦相從千里游。鐵硯功名壯心在，
短檠燈火夜窓幽。治書朝錯宜登第，射策公孫定取侯。
他日三人老兄弟，結廬相共保松楸。

和亭齡十月朔日書懷

歲事遽如許，玄冥威欲伸。地如猶未火，客坐况無茵。日

天寒性報實而狂
與短葉親

贈喻叔奇縣尉

叔奇攝職會稽公事之暇必訪僕於民事堂終夕論
文欣然相得輒成小詩見意

同舍同年友天資迥不群詩文侵晉宋兄弟類機雲梅
市訪仙侶蘭亭懷右軍叔奇嘗集蘭亭序作詩五絕公餘時過我無
酒亦論文

贈王吉老縣尉

王吉老眇然一書生也能手斬凶人以報母讎申冤
請罪自投于府識與不識莫不壯之東嘉王某作詩

以紀其事好事君子必繼有發揚之者

臣子大節孝與忠父母仇讎天不同賢哉會稽王孝子
感槩有古烈士風松楸一夕盜破家親獲屍輩聞之必
有司守法貸其命孝子銜恨無終窮誰謂書生器此言
貌若尪羸中甚武手斬凶人操觚請死申冤請公府
君不見齊襄內行世所羞春秋賢之緣復讐又不見子
胥鞭屍報父恣太史為之作佳傳君今枕父志已此更
須移孝為忠臣他年當作傳介子誓斬樓蘭雪國耻

十月望日買菊一株頗佳

秋去菊方好天寒花自香深懷傲霜意那肯媚重陽
苟晚不言好固宜登我堂書生白頭白髮用逆馨香

聞詩生日十月十六日

良天逢十月嘉節過三元
汝父初生子聞詩喜
抱孫長成今若許
氣骨有餘溫
雁序自相友
麟經可與
言志宜存遠
大學必探淵
源但務勤
修德卒終不用論
十月十六日
故與夢
發弟及聞詩
聞禮同
蘭亭仍約
喻叔奇偕
行會天氣
不佳喻亦
以疾辭
出門而止
兀坐終日
懷抱殊惡

我欲游蘭亭
天氣殊不佳
同行感微
恙杖屨不可
借出門興
遽闌茲游
竟未諧遺文
閱未和聊用
慰此懷

和喻叔奇集蘭亭序語四絕

我自扁舟入越
初蘭亭已向
夢中如崇山
峻嶺至今阻

唱和詩成無處書

前日具筆硯治詩牌竟不成性

群賢少長畢經過
曲水流觴憶永和
一代風流已陳迹
世殊事異感傷多

晤言一室許誰親
相遇無非我輩人
放浪形骸嗟去矣
仰觀宇宙尚艱辛

茂林脩竹未成往
游目騁懷聊自欣
暢叙幽情有齊契
一觴一詠細論文

和韓退之晚菊贈喻叔奇

嘉菊何太晚
十月絕黃
花既晚好何
益三嗅良可
嗟開日乃佳
節芳樽對年
家今夕苟不
飲如此黃
花何

夜讀書于民事堂
意有所感和韓公
縣齋讀書

韻

宦游寓幕府出懷屬山林兀坐窓几間默求聖賢心沉
潛偶會意嘆息常歛襟世塗豈能驚古道聊自斟馳允
思欲探丹書未容尋青銅每自照白髮已見侵事業浩
無窮筋力媿不任丈夫固有志寧在官與金

李資深贈古瓦硯及詩

世貴銅雀硯常患偽亂真千金買渴雀虛名何足珍李
生心好古身困道不負得此佳陶泓製由禹道人懇懇
持贈我端古詩清新置之窓几間日與毛穎親未能草
太元姑用注獲麟羅文及端紫貴幸無比倫屈尔居蓬
窓與我同艱辛研磨媚權貴揮染勞精神茲我所不敢

銘以書諸紳

喻叔奇惠川墨

子墨客卿來自蜀綉川家藏尤不惡明窓研磨出珠玉
客卿於君德良渥嗟予經年客蓮幕交絕方兄蒞囊橐
文房諸子亦蕭索同年於予契非薄特遣卿來助予學
不才拜賜心愧忤客卿之意殊不樂陶泓毛穎登臺閣
陳玄待詔同著作卿徒予游失所託惟清惟靜惟寂寞
但有詩篇日酬酢

戴夫人挽詞同平

勤儉肥家福亦肥晚年門戶更光輝滿庭蘭玉俱盡袖
照眼雲仍尽絲衣方外客携因果去月中人折桂枝歸

回頭往事夢公影舟旋五雲天上飛

和趙可大四絕

僧居岑寂異官居索句搜腸然斷鬢那更雨中思公事
夢魂歸到種山隅

右僧舍雨中

杜宇聲中春欲歸少陵老淚不禁揮與君共被浮蟬誤
不似淵明早見機

右聞子規

唾手科名尚少年無窮事業更居前辛勤不寐思經意
却笑邊韶好晝眠

右不寐

萬壑千岩擁越岡朝陵追念舊天王自嗟無路攀弓

劍尚忍興言及虎狼

右朝求祐陵

送黃機宜游四明名于魯

游宦東州識老成坐間談笑欲風生人如元祐氣尤直
詩不江而語自清雪棹非緣尋旧隱夜牀端欲對舞兄
行聞太史奏星聚四皓聯珠臨四明黃兄弟四人皆

盧仁及縣丞挽辭

妙齡才譽冠東嘉百戰功成暮景斜人在盧前有慙色
禮後戴後獨名家藍田美績誰能記絳帳奇兒最可夸

弭里指紳宮業冷因公淪落倍興嗟

贈術者

枉道貴何益正途窮亦榮誰辭談義命試問小君平

游天依寺

拂曉藍輿出羸城稽山照眼鑑湖明千岩深處十峯
島壑流中雙澗清香靄噓成普賢像風松吹作法華
靈鳥不肯來城郭長伴高僧避寵榮

次梁尉韻

探春連騎入山城更喜梅仙亦會盟梁後文字偶同吾
章飲聖賢滿為使君傾安撫尚書以僚屬游山送酒六
翅初為詩逢好境天然好山為清流分外清瀟灑宗之

最年少我慙叨預八仙名梁尉

副陸宰用梁尉韻

收拾湖山付管城士衡獨步張文盟湧泉詩思逼人徒
胥玉笑談終席傾天色亦緣吾輩好路人能道長官清
要令巧匠鑄山骨記取同行八士名

和喻叔奇游天依四十韻

稽山高入雲鑑湖濶浮空禹秦有餘迹晉宋多鉅公
來歲及周亭霖懷清風茲欣天氣佳扶耒欲墮隴駕言
天衣游去盡簪畫鴛鴻經夕戒行李如期集仙宮早會于

聯騎出城南行行指秦峯千岩競吐秀眼界清無窮招
提在何許十里松陰濃林端忽鍾設真客為先容群簪

擁花界双佩鳴寒空試將比天台六界如思豐天台山
堂尤有觀覽首讀色浩碑妙理開昏蒙細觀元白詩立
登羅胸中蕭壁尚堪面寺有大字璧梁新幾經烘詩有燦
觀詩公茲宮現有相禪客談無同朝陽最嶄絕白雲抹
其曾朝陽峯杜鵲天下無至今映山紅鷄僧始開山道
業聞清裏思奉照不起高價傾江東袈裟纒黃金宮女
自針工昭明親抱送禮意何太恭白馬忽渡江甚我喪
英雄國破遺衣在丹青落塵容時舊有梁昭我輩皆書
生意氣飄如虹增後共尋幽室求香火功載酒懷賀老
招隱思戴顓賦詩效吹臺一飯敢不忠况我賢使君德
字尤疎通楚體餉百榼白衣走山中嗟余何為者天資
媿慙侗謬與酒中仙偶同戴山松嶺有同年妙詞章
况有山水供古詩如古琴山高水落落昔囊小奚奴捧
現長鬢倚嶺崎勝游與佳作二美今具逢品題備群英
波瀾反孤蹤掬水弄華句比擬何凡庸掬水用在手弄
神史辨也茲會如蘭亭同行類有龍盛事在詩史奚用
呼畫工

梅溪先生後集卷第三

100

100

卷之四